



幼保小の

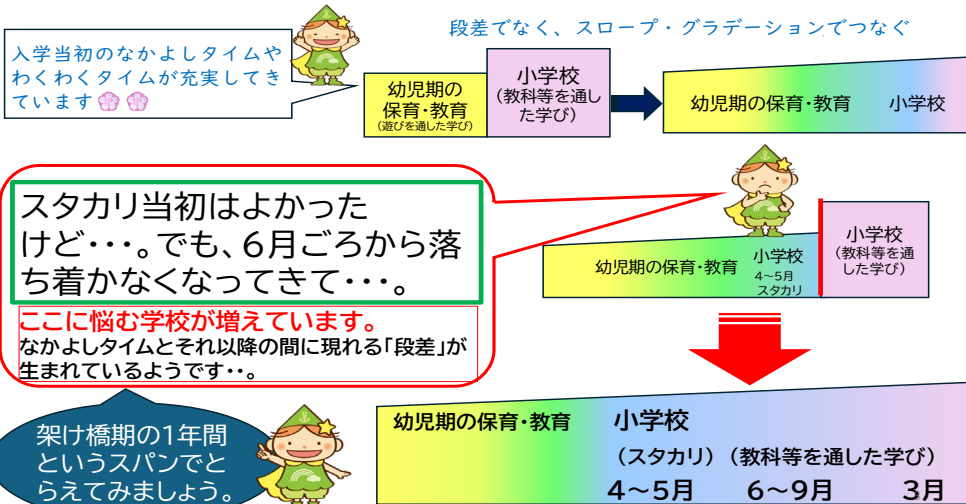
架け橋プログラム だより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。
架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

入学から4か月目。もうすぐ夏休みを迎えますね。今年度は多くの学校で、明日からわくわくして学校に来たくなる「入学式の工夫」が行われたようです。ところが、最近、そのわくわく感が少なくなってきた、という声を耳にします。

教科等の学習のぐんぐんタイムが多くなってきた時期ですが、架け橋期の発達を踏まえて授業づくりを工夫していきましょう。夏休み明けも架け橋期です。

意欲的に教科等の学習に取り組む ぐんぐんタイム



遊びや活動を取り入れて

他教科や生活と関連付けて

実践を紹介するね



《ある学校の算数の学習》「0の意味」

「あわせていくつ」「ふえるといくつ」

「0」を実感できるように、玉入れゲームを取り入れました。「0」は何もない数で、0は、たしても増えないということを、たまひれゲームの結果を計算しながら楽しく学んでいました。

また、生活科と関連させ、育てているお花のつぼみを使って、たしざんの学習を行っていました。「つぼみがふえたよ!」「ぜんぶで5つになったよ!」こんな声を活かした授業でした。算数ではそれを「+」や「=」の記号を使って式に表すことも楽しく学んでいました。



わくわくタイムからぐんぐんタイムへ

《ある学校の体育の学習》「運動あそび」

歌や踊りが大好きな子どもたち。なかよしタイムでも楽しんで行っていました。体育にもその要素を取り入れてみると、子どもたちはノリノリです。自分で想像したものを多様な動きで表現していました。一人ひとりが自己発揮し、楽しんで取り組んでいました。



なかよしタイムからぐんぐんタイムへ

《夏休み明けは、なかよしタイムを取り入れてみよう》

夏休み明け、生活のリズムはまだ夏休みモードの子どもが多いと思います。4月に行ったなかよしタイムの人間関係を作るゲームを行ったり、活動を多く取り入れた学習を行うなど、1週間ほどは子どもの心と体のペースを考えたマネジメントが子どもにとっての安心と落ち着きにつながります。

